

ニュースレター

No. 10

2006.10.15

発行/市民活動サポートセンターいなぎ
運営協議会

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2-1-12-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

ホットな話題

出会いの場

「喫茶ポーポーの木」が 10月1日にオープン



10月1日、平尾住宅商店街に「喫茶ポーポーの木」がオープンしました。

困ったときはお互いさまをモットーに活動している「NPQふれあい広場ポーポーの木」が、地域の出会いの場としてつくった軽食喫茶の店です。

月～土曜日の午前10時から午後6時まで開いているそうです。ぜひ訪ねてみてください。



書の貸出し 始めました。

市民活動サポートセンター

男女平等推進センター

地域振興プラザ内の市民活動サポートセンターと男女平等推進センターに設置している図書を貸出しします。希望される方は、地域振興プラザに直接お越しください。

◇貸出冊数 1人2冊まで

◇貸出期間 2週間

◇貸出日 開館日の9時から17時の間

※身分を確認できるもの



をお持ちください。(免許証や診察券など)

◇問合せ 協働推進課

◇電話 378-2112

◇メールアドレス

kyoudousui@city.inagi.lg.jp

子育て応援フェスタpart II

にこにこ親子の

わくわく子育て

- と き 11月25日(土)
10:20~12:30
- ところ 稲城市地域振興プラザ4階
- 主 催 稲城市地域家庭教育推進協議会
- 共 催 市民活動サポートセンターいなぎ
- 内 容 (1) 歌遊び・・・頭金多絵さん
(親子共室めくめくだつこらんど)
(2) 講演会
講 師 菅井正彦氏
(子育て支援事業総括コーディネーター)

まちを元気にする「コミュニティビジネス」

9月30日にサポートセンターが実施したNPO講座で、多摩大学の望月教授に「まちを元気にするコミュニティビジネス」というテーマで話をいただきました。そこでの望月教授の話をご参考にしながら、なぜいまコミュニティビジネス（以下「CB」）なのかを紹介したいと思います。



コミュニティは「地域社会」、ビジネスは「事業活動」といった意味ですが、その2つを結びつけた造語がまちづくりのキーワードとして最近注目されています。なぜ注目されているのでしょうか？その理由を望月教授は、グローバル化が進み、経済競争が激化したことによって、社会の仕組みに様々な歪が生まれている。それに対する反省があるからだと説明しています。

グローバル型からローカル型の経済へ、産業機軸社会から生活起点型の社会へ、競争環境から共生環境の枠組みへとといった転換が必要になっているということなのです。



一般にベンチャー企業はハイリスク・ハイリターンと言われる。それに対しCBは、ローリスク・ローリターンであることが大きな特徴です。利潤を追求することが主な目的ではな

く、地域における様々な課題（まちづくりや環境、福祉、教育、文化、介護、身近なITなど）をテーマにしなが、その解決手段として、個人やコミュニティのニーズにあった社会サービス（生活起点のサービス）を提供するビジネスなのです。

ですから、地域社会がもっている労働力や原材料、ノウハウ、技術といった様々な資源を生かしながら、地域住民が中心になって地域に密着した事業を行うところに意味があります。

また、営利事業とボランティア活動の中間領域的なビジネスであり、適正な利益を維持しつつ、息長く地域の中に根づかせることが大事なのです。



望月教授は、CBについて次のようなキーワードを示してくれました。

- ① 人の生き方の創造
- ② コミュニティの再編成
- ③ 利益最大化から幸福最大化へ
- ④ 規模の経済から希望の経済へ
- ⑤ 資本主義から志本主義
- ⑥ 地域社会を持続するためのビジネス
- ⑦ その土壌は市民のプライド（誇り）

CBは、コミュニティを利用することで成立するビジネスです。がその一方でコミュニティを元気にするものでなければいけません。例えば、ささやかであつてもキラリと光る個人の夢や志を実現できる生き甲斐づくり、持続可能な地域づくり、人



▲望月教授の話に熱心に聞き入る参加者

と人が触れあえるコミュニティづくり、地域や個人のプライド（誇り）を基盤にしたまちづくりにつながる必要があるということです。



具体的な例として介護サービスについて考えてみます。社会福祉法人や企業に加え、NPOが事業者として参入する意味がどこにあるのでしょうか。

それはNPOがコミュニティに立脚した組織であり、地域住民のネットワークづくりを得意としているからです。すなわち、高齢者を見守る体制が、他の事業者よりよりきめ細かに展開できるという強みを持っているのです。しかも、そのネットワークを介護以外の様々な分野においても発揮したとしたり、間違いなく地域力のアップにもつながっていくはずなのです。



最後に望月教授から、農地や自然資源がたくさん残されている稲城のようなところは、それをターゲットにした都市型観光、すなわち「遊歩都市」を目指すべきではないかという提案がありました。（小林）

八月

空白のシルクロード ウズベキスタンの旅

話し手：田原由貴さん

今回話題のウズベキスタンは、普段なじみがない国ですが、ちょうど中国とイランの間にあって、かつてはシルクロードが通っていたそうです。

この国は近年、観光、特に日本からの観光客に力を入れていて、そのため田原さんが初の日本人の日本語教師として派遣されました。

現地の話聞くだけでなく、お土産の食べ物や飲み物をみんなで味見したり、ビデオを見ながら理解を深めました。

ニュースで世界中のことを知ってるつもりになっていましたが、久しぶりに「まだ見知らぬ異国」を体験しました。

世界はまだまだ広い！

(川本)

九月

地域をつなぐ食事サービス

話し手：石田惇子さん

「支え合う会 みのり」を通して「高齢者と食事」の問題を地域でどう支えて行くかを考える場となりました。

主な事業である、配食サービスでは良質の食事を定期的に提供するだけでなく、配達時に安否確認をするという重要な役割を担い、会食サービスでは高齢者の交流の場として、閉じこもり予防にも大いに貢献しています。

食事サービスと介護保険の位置づけ、担い手の高齢化、区画整理のための活動拠点の立ち退き問題などを抱え日々奮闘中とのこと。

長期に渡る実績に加え、スタッフ皆さんの意識の高さと強い団結力が今後も地域を支える大きな力となっていくことと思います。

(塩川)

十月

クリーンセンター 多摩川のはなし

話し手：鈴木彦次さん

年間のごみ処理量は、約10万トンにものぼり、ごみは24時間燃やされているそうです。

ゴミ焼却場の特徴は、①環境対策(2次公害の防止)の徹底、②余熱の有効利用(市立病院で利用しているほか、年間約5千キロワットの発電をし、余った電力は東京電力に売却)、③焼却灰は1300度で溶かしスラグとメタルに変えて再利用の3点です。

稲城市の一人当たりが出す1日ごみ量は、平均で477グラムで、他の3市と比べて約100グラム少ないですが、更に分別を徹底すると約4割は減らす事が出来るそうです。

ごみゼロ社会を目指して毎日の暮らしの中で、ごみの減量・リサイクルを更に進めていきたいものです。

(坂井)

ガンバってます 7



▲例会では活発に意見交換を・・・

名前の由来は、子供の頃に紙コップに糸を通して遊んだ「いとでんわ」で、声が直接伝わり気持ちもつながるようになってきました。

会の設立は2006年4月、会員は、50〜80歳代の男性と女性10名。組織は代表・副代表・事務局各1名で年間のカリキュラムに沿って活動しています。主として「認知症介護家族教室及び家族交流会」です。取材当日は8月例会で地域振興プラザのミーティングコーナーで「ストレスをためな

介護家族の 応援団

いとでんわの会

代表：長坂友子さん

「介護」について話し合いをしていました。

「会員が悩みや困っていることについて介護経験者・現在介護中の方からアドバイスを受けて少しでも緩和できればいい・・・。」と活発な意見交換をしていました。

長坂代表は「私たちが子育て中に、泣き止まない子をどうしたらよいかと困っている時に近所のお年寄りが『ど〜れ赤ちゃんを渡してごらん』とちよつとあやすだけで泣きやんだ。ほんの一例ですが経験と知恵に驚いたことがいっぱいありました。今度は私たちが手伝う、そんな気持ちからスタートしました。今後は介護を受けている人も介護をする人も、みんなで外出して楽しみながら心を癒したい。そんな会にしたいです」と話されました。(稲垣)

- 毎月 第2土曜日
13:30~15:30
- 場所 地域振興プラザ1階
ミーティングコーナー
- 連絡先 稲城在宅支援センター
☎331-6601 (17:00まで)
(夜間)長坂 ☎377-0274

運営協議会

ほうこく

役員会・全体会

8月17日(木)と9月11日(月)、午後5時から6時まで役員会、引き続き8時30分まで運営協議会を開催し次の議題について協議した。

8月17日

【センター運営に関して】

○事務局・各分会・NPO法人化準備委員会の報告
※法人化のための申請書を7月25日に提出した。

【事業企画に関して】

- ①NPO(市民活動団体)講座について
- ②ハッピーリタイアメント講座Ⅱについて
- ③子育て応援フェスタ2006について
- ④運営協議会メンバーの研修

について

- ⑤金曜サロンスペシャルについて
- ⑥ニュースレター9号の発行について

9月11日

【センター運営に関して】

○事務局・各分会の報告

【事業企画に関して】

- ①NPO(市民活動団体)講座について
- ②ハッピーリタイアメント講座Ⅱについて
- ④Iのまちいなぎ市民祭への出展について
- ⑤利用登録団体交流会について
- ⑥金曜サロンスペシャルについて
- ⑦運営協議会メンバーの研修について
- ⑧ニュースレター10号の編集について

金曜サロンスペシャル

■11月10日(金)

- ・話し手:川原昭太郎さん
- ・テーマ:「金のなる木」
～プラントハンター～

■12月1日(金)

- ・話し手:石田光広さん
- ・テーマ:「『介護のまちづくり特区』よもやま話」

これからの事業予定

ハッピーリタイアメント講座Ⅱ

◆日時 12月10日(日)
13:30~16:30

◆会場 稲城市地域振興
プラザ4階

【第1部】講演会

「地域があなたを待っている」
～みんなで作戦会議からはじめよう～

講師/松本すみ子氏

(シニアライフアドバイザー)

【第2部】グループワーク

編集後記

最近、団塊の世代が退職する二〇〇七年問題の記事を毎日のように新聞で見かけます。

実は、稲城でも今年からこの問題に取り組んでいて、ハッピーリタイアメント講座と名付けて開催しています。

これは、公民館、社会福祉協議会、当サポートセンターが一緒になってやっていますが、これらの団体は、社会的な活動だけでなく趣味など様々な活動も実施していますので、市の広報などで見かけたら気軽に(あるいは思い切って)参加してみたいかができようか。

「まだ、自分に関係ないよ。」と思う方も多いかと思えます。でも、そんな風にも意識すると言ったことは、「まだ」ではなくて本当は「もう」なのかもしれません。

「でも、そうは言いたってねえ。」とお思いかもしれませんが、なにも特別なことをするのではなくて、ただ参加すればいいだけなんです。もしかしたら、近所で意外な仲間を見つけたことになるかもしれません。

(川本)